【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成27年6月25日(2015.6.25)

【公開番号】特開2014-9113(P2014-9113A)
【公開日】平成26年1月20日(2014.1.20)
【年通号数】公開・登録公報2014-003
【出願番号】特願2012-145485(P2012-145485)
【国際特許分類】
Ｃ０３Ｃ　3/21　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０３Ｃ　3/21
Ｇ０２Ｂ　1/00

【手続補正書】
【提出日】平成27年5月11日(2015.5.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
前述のように、Ti^{4+}、Nb^{5+}、W^{6+}、Bi^{3+}、Te^{4+}は、熔融性への影響に差異があるものの、それぞれが共存することによって、一方の成分がガラス化しても、残りの成分が熔解せずガラス中に残存する、または全ての成分をガラス化させようとすると他の成分がガラスの着色を悪化させるなど、全般的にガラスの熔融性を悪化させる傾向がある。
一方、B^{3+}、Li^{+}、Na^{+}、K^{+}、Rb^{+}、Cs^{+}、Mg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}、Zn^{2+}はガラスの熔融性を改善する働きがある。
第６の好ましい態様では、高屈折率特性を維持するため、B^{3+}、Li^{+}、Na^{+}、K^{+}、Rb^{+}、Cs^{+}、Mg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}およびZn^{2+}の合計含有量の上限をTi^{4+}、Nb^{5+}、W^{6+}、Bi^{3+}およびTe^{4+}の合計含有量との比により規定する。すなわち、第６の好ましい態様は、B^{3+}、Li^{+}、Na^{+}、K^{+}、Rb^{+}、Cs^{+}、Mg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}およびZn^{2+}の合計含有量が、Ti^{4+}、Nb^{5+}、W^{6+}、Bi^{3+}およびTe^{4+}の合計含有量の１／３以下である光学ガラスである。
なお、Ti^{4+}、Nb^{5+}、W^{6+}、Bi^{3+}およびTe^{4+}の合計含有量に対するB^{3+}、Li^{+}、Na^{+}、K^{+}、Rb^{+}、Cs^{+}、Mg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}およびZn^{2+}の合計含有量のカチオン比（（B^{3+}＋Li^{+}＋Na^{+}＋K^{+}＋Rb^{+}＋Cs^{+}＋Mg^{2+}＋Ca^{2+}＋Sr^{2+}＋Ba^{2+}＋Zn^{2+}）／（Ti^{4+}＋Nb^{5+}＋W^{6+}＋Bi^{3+}＋Te^{4+}））の好ましい上限は３／１０、より好ましい上限は１／４、さらに好ましい上限は９／４０であり、好ましい下限は４／３０、より好ましい下限は３／２０、さらに好ましい下限は１／６である。